

第3号

みんなで考えよう！木のまちのものづくり。

ものづくり勉強会

NEWS LETTER

How to DESIGN?

発行 海山町林業研究会 発行責任者：今井康人
事務局：〒519-3408 三重県北牟婁郡海山町大字便ノ山200 森林組合おわせ内
tel 0597-32-0275 fax 0597-33-0028 担当：川端将文・甲賀寛代<KOKUYO>

2004 / 1 2 / 04

謹んで台風被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。
1日も早く完全復旧がなされますことをお祈り申し上げます。



展示してみれば立派な作品

七月の二十日、二十八日海山町木下陶芸センターとこんべの里を会場として、ポラックスアート2004と題し、ひのきのかんなくぼりを使ったワークショップが開かれました。参加してくれたのは二十二人の元気な子どもたち。一日間という長い時間にもかかわらず、みんな夢中になって素敵な作品を作り上げました。

海山町では以前にも三重県立美術館が大田賀の森でアートワークショップを行っていましたが、今回はものづくり実行委員会と東京芸大の先生方、大学院生、三重県立美術館、教育委員会、NPO法人海山元気の会が連携するかたちで実行委員会が組織され、その他たくさんボランティアの方々協力してくれました。

ひのきのかんなくぼり
アート



大人は子供のパートナーになってサポート。でもつい大人の方が夢中になって...

ワークショップとは、みんなで対面式で何か新しいこと・ものを創り出すことが始まりになっていて、もともとアメリカで演劇の中から生まれた手法で、今では様々な分野で応用されています。特に最近では子供の美術教育分野で盛んです。今回は子供たちにヒノキの良さを知ってもらおう体験的ワークショップとなりました。

ワークショップとは

東京芸術大学卒業作品展視察ツアー 開催！



来年2月22日から26日の間、東京・上野の東京都美術館・東京芸大 大学美術館にて卒業・終了作品展が開催されます。それに合わせ、ものづくり勉強会の視察ツアーを企画しています。ツアーでは展覧会の視察だけでなく、先生方や卒業される皆さんの話を聞いたり、夜には先生方を囲んでのレクチャー、翌日は都内見学など様々な刺激を体験する企画を考案中です。ふるってご参加ください！

期間：平成17年2月26日(土) 27日(日) 2泊3日 *25日夜現地泊
宿泊：東京都台東区上野 水月ホテル鷗外荘
費用：現地での活動費・食費など (東京までの往復費用 宿泊費は委員会にて負担)
応募締切り：平成17年1月20日

申し込み方法
以下の申し込み書に必要事項を記入し、ファックスにてお申し込み下さい。
これまで「ものづくり勉強会」に参加頂いた方を優先いたします(案)
希望者は「地域と私」をテーマに100字程度でご自身のお考えを記入してください。
(申し込み用紙に記入)

お申し込み先：
海山町林業研究会 電話 0597-32-0275 ファックス 0597-33-0028
*応募結果ならびに詳細については後日ご連絡致します。

東京芸術大学卒業作品展視察ツアー 申込書

氏名	業種等
連絡先住所	
電話番号等	Tel. _____ Fax. _____
テーマ	

木ラックスアートを 振りかえって

木はもろちろん家を建てたり、家具を作ったりする事に使われていますが、そつじつ使い方でだけでなく、こもたちに木の色々な性質を見せたい、楽しく伝えたい、と考えたことが今回のひのきの裂き織り「のきうかけ」でした。この事を今回の全体プランを考え、くれた三重県立美術館のアートエデュケーターを務める大和慎さんに伝え、障子の枠を使ってひのきを織りこんだときの透過する光の美しさ、独特の香りを伝えることを考案してもらいました。

また、東京芸術大学からは、ものづくり実行委員でもある田中先生と、助手の園部さん織物のプロが必要というところ、染織料の出居先生、院生の篠田さん石川さん、卒業生の岡本さんにこの試みの主旨を理解してもらい、準備段階から当日の指導まで多大なご協力をいただきました。特に大和さんの全体をコーディネートする方子供とのコミュニケーション方法など委員会としても学びがいろいろありうございました。



篠田さん、石川さんの参考作品

木工陶芸センターにて受付後、開会式喜多健教育長より開会の挨拶。三重県立美術館のアートエデュケーター大和慎さんからも挨拶。説明、ひのきの織物に囲まれてお茶とお菓子をいただくという趣向。続いていっぴんさんと田中先生と、裂き織りのプロ、出居先生から織物についての説明。障子枠にひのきを編んで行くか、みんな真剣に聞いていました。大人はめいめい子供のサポートについて、さあスタート！

午後からはお茶会で食べる落雁づくり。一日置いたほうが壊れにくくなるそうです。知ってた？

他にも子供が飽きないように、機械を使ってひのきの箔層を作ってみせたり、丸大からどうやって柱が作られるのか説明したり。この辺の配慮はさすがプロのエデュケーターだと思いました。こどもたちはみんな織物に夢中。初日が終わる頃にはそれぞれの個性ある作品が生まれつつありました。



一日目

一日目

今日は午前中いっぱい作業はあわり。中には受付時間前から始めちゃっ熱心な子もみんなの様子を美術館の白石館長も見て来てくださいました。こほんを食べたら権兵衛の里に移動。作品を運んでくれたスタッフの皆さんお疲れ様でした。作品を飾って、お茶会の会場が出来あがり。なかなかの出来映え！自分の作ったお菓子も、お抹茶も美味しかったです。手伝ってくれた大人の皆さんにも感謝の気持ちを込めて点てました。川端徳夫さんから木のお話を聞き、最後は田中先生からひのきの板の参加賞授与で修了。最後にみんなで記念写真をパチリ！

暑い一日間、地元のサポーターの皆さん、美術館のボランティアの皆さん、本当にありがとございました！



平成17年1月4日(火)から30日(日)まで今回の作品が三重県立美術館に展示されます。ぜひご来館下さい。

まちあるきの地図を作ろう！

勉強会に参加してくださった皆さんの感想にあるように、フィールドワークでは地域の面白いものや楽しさの発見がたくさんありました。このまち歩きは今後も続けたい、まちあるきマップを作りたいと思います。ゆくゆくはこの地域を訪れる観光客のみならずが楽しめるようなものに繋がればと考えています。

どこだかわかります？

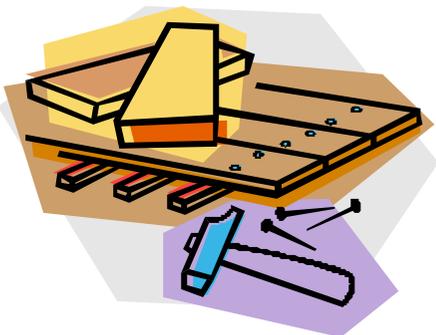


START!



学校の雰囲気も
ロケなんかぴったりかも・・・!?

今年度最後の勉強会は東京 視察ツアー！



今年もはや12月。地域にとっては忘れられない一年になりましたが、われわれものづくり勉強会では、来年をより充実した活動内容にするため第3回目の勉強会を東京芸術大学を勉強の場として思い切って視察ツアーに出発することにいたしました。大学内を見学させていただいたり、卒業生たちの製作展を観たり、これからものづくり、まちづくりに積極的に参加したいという皆さんは是非！詳しくは8ページの参加申込書をご覧ください。また、来年度の活動には差天の先生方だけでなく若手の研究生や学生の皆さんにも参加願おうと考えています。そんな若手の皆さんとの意見交流も企画中です！

<第一部>
作品づくりの視点を通して
感じてみよう！ものづくり



田中先生の引き出しのついた作品

建物をお借りして作品を展示したところ、たいへん雰囲気のある会場作りができ、作品を見る語るにふさわしい空間になりました。

八月二十一、二十二日の二日間、芸大の先生方をお招きし、第2回ものづくり勉強会が開催されました。夏の青、いろいろなイベントの開催を重ねてしまっただにもかかわらず、50名の皆さんが参加してくれました。今回は先生方の作品を直に見て、どんなことを考え、なにを表現しているのか、三人三様の手法を通して語ってもらいました。

**第2回ものづくり勉強会
開催！**



まず最初に緊張感をほぐすため簡単なゲームを体験。正方形の紙と赤いペンを渡してそれぞれ10の丸の旗を作ってもらいました。これは微妙なデザインのバランスでもの見え方はかわるものだという点を理解してもらおうのが狙いです。意外と難しいものですが、一度度リアルニックのメタルラッシュに挑戦していたことで皆さん本物を見慣れていたみたい！美しいバランスを記憶していました。田丸のシンブルな美しさは多く日本の美意識の代表のように言われていますが、実はこのデザインをフランスが譲ってほしいと申し出たイベントなど、田中先生が詳しく解説してくれました。後半は先生方が自身の作品を解説。作品を作ることで、別に芸術とは何かなんて難しいことを考えたいわけではなく、自分の感性をどう作品に反映するか、ということを熱く語っていただきました。



間近で作家自身に語ってもらうのも貴重な体験

私自身が考えていた以上に地域の古からの景色が消えていることに心が痛んだ。又、それに対し新しいものの美しさが本質をはずしてしまっているのではないかと考えさせられた。私が考える地域の良き物もそれ程の違いがなく嬉しかったが、物質の質感に対する視点には気にかかわることが多かった。

金井康人
またまたいっぱい良いところがあります。海山町のファンが増えることが活性化につながるのではと以前から考えていましたが、今日の勉強会を企画するにあたり、自分がより海山町のファンになったように感じます。

東豊
狭い路地はすべつながついていて漁師(夫)町特有の運命を共同体化していることを感じる。出会ったおはあちゃん、明朗でホッとする。小さい子供たちに出会うことがなく、過疎を感じる。産業の香りが豊かで、木と海の素材が直結して理にかなっている(シンブル)。作明の解説は興味深く、心地よい空間と時間を体験できました。日常の中にあるいは町にその雰囲気「香り」を表現できたと思います。

森本亜希恵
大学で4年離れてこの町に戻ったとき、この町の人の温かさ、雰囲気につれしさを感た。今、久々に慣れ親しんだ町を探索し、2年前感じたうれしき、温かさ、良さを思い出した。最初に訪れた神社は私の実家だが、以前、あの関船は祭前日、当日のみに姿を見せる。当時の子供達には偉大な存在であった。今は常設しており、その偉大さ、存在感を失いつつあるように思ふ。今日皆さんが興味深げに船を見ていたのを見て保存方法を考えたいかなければと思つた。先生方の力をお借りしてこの町の産物等を用いた作品づくり、新しい視点での町の見方等の機会をまたしてほしい。大学で美術専攻だったが、芸大がこの地に足を踏み入れて下さるといっつのはこの町の文化、芸術の発展につながるから感じている。

<第二部>
フィールドワーク
わたしたちのまち再発見！！



二日目は朝からフィールドワークです。先生方と引本浦のまちと島勝浦の港周辺を歩いて廻り、地域の良さを再認識する。いつもの先生の外からの視点で見ると、という新鮮さもさることながら、普段車の移動ばかりで、まちをじっくり歩いたことがないという人が多く知らない風景、見過ごしていたまちの雰囲気に参加者自身が予想以上に楽しんでいます。くださったのではないかとおもいます。

● 思ったこと、気付いたこと/先生方への要望 ●

時代(歴史)と共に、不要な無駄などのものが削り落とされたシンプルな美しさを改めて感じた。家並み、かつお製造工場等々先生方の鋭い視点、画面の切り取り方などいろいろと勉強させていただいた。先人達が生きてきた倉てきたこの自然と文化を未永く保存し、活用していくために今後ともご指導の程お願い致します。

濱田宗樹

普段住んでいる地元の街並みも細かく観察してみることによって新鮮に感じることができた。これからは、物を様々な角度から見てもみようと思えた。「ものを創るためには、まず自分の感受性を高めることが大切」という田中先生の話に感銘を受けた。様々な分野の先生に関わっていただき、これからどう展開していくのか楽しみです。

植村英

町の人々が気軽に話しかけてくれたことが嬉しかった。初めて見た引本神社、資料館線香屋さんがあったことも知らなかった発見で子供に早速報告。浜じんの元返しの本がどのように使われているか初めて知った。今回何もかもが新鮮だった。先生方の作品を見て、そして話をさせてもらい、まだまだ勉強しなくてはと思った。自分ばかりでなく、使う人によつてどのようにつまするか、物に対する優しさを教えてもらった。

大板孝佳

平素の生活リズムの中で、体験できない時間を過ごすことができませんでした(これまでのカテゴリー)になかった。改めて生活している地域を見直し、考え直し、いろいろな事を再発見できたように思います。生活の基本の大切さについても考えさせられました。今後は、地域や地域内の工藝に関するリサーチが済んだら、いよいよ共通のテーマにのっとり、何かみんなで作品を作るといったことも始めてみたい気がします。

中井孝佳

引本浦の街は、常日頃通るが車ばかりで歩いてゆっくり見ることがなかった。紀北には漁師街がいろんな所にあるが、引本浦は特に昔らしさが残っているように思う。なぜかお好み焼き屋や料理屋がおいしそうに見えた。(一度も入ったことないが私はこの地域の出身だが、先生方が思うほどこの地域の良さが分かっていないので、もっと他の地域にないものを掘り起してみたい。

高村順

信用組合の建物がなくなる。自分が通った木造建ての校舎がなくなり、もったいなくさみしく思った。大白浜も昔はジャングルをかき分け歩いていかなければならない、ものすごく味のあるビーチであった。和具の昔を自分は知らないが、それはそれで良いものだったと感じられた。作品は説明の前と後では見え方が変わった。新しいもの、古いもの、良いものの価値というのは見方、感じ方、思い入れによって違ってくるものであり、様々な方向スケーで測るもので簡単に結論の出るものでないということがわかった。

高板孝節

第2回ものづくり勉強会



勉強会の一夜



田中先生作。なにをしよう?



勉強会後の記念撮影



古くなった錘を使って粹なすだれ。ほしい!!



建物の締めくくりになった勉強会



高台から見下ろす引本の風景。映画の1コマのように



大白浜にて あいにくの曇り空



木と漆喰のバランスがきれい。